

背景

◎ 富士市は、県内第3の人口を擁する都市でありながら、市内に大学が存在しない。（約24万人）



現状の課題

- 高等教育機関は、若い世代の人口確保だけでなく、地元への優れた人材の輩出や、まちづくりをはじめとする様々な課題の解決への貢献など、地域社会における知識基盤を支えるうえで重要な存在であり、産業経済面での活性化や地域の賑わい創出にも大きな影響を及ぼすものです。
- 当市では、18歳と22歳の転出超過が大きく、主に大学進学を迎える年に本市から転出する若者が増えています。

事業の目的

- ① 大学等との連携を強化することで、当市の持続可能な発展を目指します。
- ② 大学等のフィールドワークを積極的に受け入れることで関係人口を増やし、若者に当市の魅力を知ってもらうことで将来の転入に繋がります。

これまでの取組

- ・第六次富士市総合計画に「高等教育機関の誘致等」について調査・検討する施策の位置づけ
- ・令和3・4年度は内閣府「地方へのサテライトキャンパス設置等に向けたマッチングのための調査・支援事業」による、様々な調査・検討の実施
- ・令和5年度からフィールドワークセンター整備等による大学等との連携事業の実施

事業 内容

- ・富士市フィールドワークセンターの開設・運営
- ・当市におけるフィールドワークの推進
- ・大学と企業の交流創出



成果・目標

- ・富士市フィールドワークセンターへの学生の受入れ
- ・市内企業と大学等との連携強化
- ・大学等との連携による地域課題の解決
- ・大学等の誘致



企業のメリット

- ・学生のアイデアによる新しい事業創出機会
- ・学生への企業イメージの向上

企業に求めるもの

- ・企業版ふるさと納税による支援
- ・フィールドワークの受入れ

得られる 成果等